

# 令和4年度 大和中学校 第2回 学校運営協議会 議事録

令和5年2月15日（水）大和中学校にて実施

## 1 会長挨拶

ひまわり満開の日を見て、大坪さんや先生方のおかげで、子どもたちが元気よく活動することができた。また自治会にもお世話になったが「やまとの日」ができなくて残念。ここ数年コロナのため思うように活動できていない。本日は3つの議題を含めて、来年度につないでいきたい。

## 2 学校長挨拶

コロナで制約を受けた1年。子どもたちの知恵で、最大限のことを成し遂げてきた。「ひまわり満開プロジェクト」では、子どもたちの笑顔がはじけた。ドローンで動画も撮影していただき、その活用を考えている。「やまとの日」実施直前になってできなくなったので、来年度こそは何とか実施したい。そのためには、皆さんのお力添えをお願いしたい。

## 3 議事について

(1) 今年度の学校教育活動の成果と課題について ※資料P. 1～7の説明に基づいて

【鷺見】Q. P. 2の資料は4月のものか？

【校長】A. 校長の手持ち資料。▲は、本校が他と比べてマイナスのポイントを示す。

【水野】Q. P. 2のSDGsについて、学校長の思いがどのように学校に普及しているのか？

【校長】A. 今年は生徒が知り、興味をもつ段階。そのために、校長が生徒玄関に掲示を作成したり、各教科での授業内容がSDGsのいずれかに関係がある時に、教科担任がフラッシュカードを使って話したりしている。

【水野】Q. コロナ禍だからこそ、一人一人の子どもが見えたとし、意識が読み取れたと思うが、どう感じられるか？

【清水】A. この子がこんなこと書くんだなあとか、資料にある「今年は地区リーダーを経験させてもらい…」と答えた生徒などから、心から笑ったり悔しがったりする姿が見えてうれしい。学校の中では味わえない、地域に出てみたからこそ見える姿があった。一步も動けないところから水を得た魚のように。

【水野】□ 地区リーダーについて、地域が受け入れて、このP. 4・5の振り返りがある。大きな成果だ。コロナ禍でしか得られなかったことだ。

【木島】□ 公民館での今年度の反省の中で、中学生が夜の会議に参加してくれて、いろいろ変わった。特に大人の姿や話し方が変わった。緊張感がある。中学生が自分の思いを堂々と話している姿に圧倒された。子どもの願いに伝えていきたいという空気が生まれた。行事にもたくさん参加してくれたし、積極的に関わってくれた。心配なことは、夜の会議での子どもたちの送迎。会議が終わっても保護者の迎えがなかなか来ないこともあった。また、連絡をどうとるか。1年目は学校を通していたが、それだけでは動いていけない。また連絡した生徒から他の生徒にどう伝わっていたかなど。固定された地区リーダーに加えて、来年度新たな子がうまく入っていけるとよい。小学校の統合で、公民館がどう活動していくかも大きな課題。それを踏まえた、令和5年度の「やまとの日」になるとよい。

【大坪】□ P. 6にある、高齢者の家庭の畑づくりや農作業等の手伝いについては、直接来られても農家さんが困る。朝一を窓にしてくれれば、一緒に活動できる。気軽に楽しくできるし、農家さんも喜ぶ。また、学年懇談会など大勢の中では、保護者がなかなか話しづらいので、小グループをつくるなどしていただく、先生方としゃべりやすいし、しゃべる人もいると思う。自己肯定感の低さについても、親も一緒になって取り組めるとよい。ひまわりが咲くときの情報の広め方をもっと効果的に工夫できるとよい。咲かせた子どもたちの気持ちも伝えられるとよい。

【水野】□ 種がもらえれば、配ることができる。

【大坪】Q. 苗の方がよいか？

【水野】A. 苗だとすぐに植えないといけないから、種だとよい。

【清水】A. 子どもたちには、苗が喜ばれた。自分でポットをもってきて苗をもらう子もいた。子どもたちにアイデアをもらいたい。

【木島】□ ひまわりは、以前の校舎の壁に描かれたひまわりがはじまり。人権推進校に

指定されたとき、人権の花としてひまわりが決まり、育ててとれた種を次の人権推進校に渡そうということになった。例えば〇〇小では、ひまわりの種をチラシと一緒に配り、そこにQRコードを付けてスマホで読み込み、撮影した花の写真を学校へ送る取組をし、学校のSNS上で花の写真展を開いた。次の指定校には、ひまわりが咲いた後の種を配って咲かすプランがある。

【校長】□ 学校でも写真のコンテストができないかと考えた。スポンサーがついてくれたらよい。

#### <学校運営協議会について>

【鷺見】□ 昨年度は、たくさん会議を行った。今年度は、ひまわりの取組はあったが、この協議会の方針やどうあるべきかについてはあまり深めることができなかった。「やまとの日」ができなかったが、生徒の声からは成果があったと思う。できないときこそ、この協議会のメンバーが子どもたちの声を聞くことが大切だったのではないか。そうであれば、協議会が次のことを考えていけたら、もっと声をかけられたと思う。地域で学校を支えていけるスタイルで、いろいろと語ることが大事だったと思う。

#### (2) 来年度の活動と「やまとの日」について

【清水】□ 来年度の「やまとの日」は、今年度から大きくは変更せず実現させたい。来年度の実施日について、すべての公民館が統一日であると調整が大変になるため、幅をもたせて地区ごとに決定した別の日での開催を考えている。また、菜の花の取組のように、プラスアルファで活動の可能性を広げていきたい。ねらっていくところは、学校教育目標の2つ。また、職員による学校評価の中で、子どもたちの学校生活の足もとの弱さがあるのではないかとの指摘もあった。そこで現在は、校内でも生徒の弱さと感じられる挨拶にこだわっている。地域の中でも、気持ちのよい挨拶により、人と気持ちよく関われるきっかけをつくっていきたい。今年度の大きな課題は、P. 10の赤字の4つ。人と人とのつながりを大切にしていきたい。

【木島】Q. 令和5年度は4小学校の統合に関わり様々な行事がある。「やまとの日」の実施日を各地区で決めるのであれば9～11月ではなく7・8月でもよいか。

【校長】A. 7月は中体連の大会やコンクールもある。年間のどこでもよい。

【白石】□ 「やまとの日」を、各地区で決めると言っても、具体的なイメージがない。また、各地区ではなかなか決まっていけないので、学校で決めていただけた方がよい。

【検討】□ 検討の結果、令和5年度の「やまとの日」は、統一日とする。その決定にあたり、公民館の活動予定を木島公民館長に集約していただき、自治会の活動予定は学校が各自治会長に調査して集約し、2月中に決めることとする。

【木島】□ 地区リーダーを3月中に決定してもらいたい。

【学校】□ 昨年度同様、木島公民館長に生徒向けにお話をいただき、決定していく。

【清水】□ 今年度から継続というスタンスではなく、一度リセットして募集する。ボランティア精神のある子は、継続して立候補するはず。いずれは、先輩が後輩に投げかけて決めていけるとよい。

【鷺見】□ 新入生もリーダーになりたければなれるように、先輩から投げかけてもらえるとよい。令和5年度も、1回目の運営協議会が早めに関けるとよい。

【鷺見】□ この会がどういう位置付けなのかが明確になるとよい。今年度も、ひまわりのプロジェクトの時期までは関わられたがそれ以降はなかなかできなかった。大和中の学校運営協議会は、国・県・市のコミュニティー・スクール構想からは離れている。どういう組織にしていくべきかを考えていきたい。

【校長】□ 今年度も、コロナ禍であった。来年度こそは、この会のことを含めて「やまとの日」を実施していきたい。

#### (3) 来年度の協議会委員について

【決定】□ 今年度は「やまとの日」が実施できなかったため、来年度実施するために、今年度の役員さんには、継続で委員をしていただく。ただし、PTA会長や自治会代表等、役職での委員さんには、新年度の委員さんになっていただく。また新たに、大和振興事務所の学校担当の方に委員になっていただく。

#### 4 会長挨拶

【水野】□ 子どもたちが成長している。その土台は、教育目標に基づいて子どもたちが考える「やまとの日」。子どもたちの成長が大人の成長になる。